

保健体育科学習指導案

指導者 柿手 祝彦

日時 平成29年11月18日(土) 第2校時(11:05~11:55)

年組 中学校第3学年1組 計38名(男子17名,女子21名)

場所 中学校グラウンド

単元 球技「ソフトボール」

単元について

本単元の「ソフトボール」では、「進塁」を中核とし技術構造を整理した。まず、ソフトボールにおける攻撃の目的は「得点をとること」である。この得点をとるために必要となるのが「進塁」である。そして、この「進塁」を達成するために必要となるのが「打撃」となる。このように「進塁」というキーワードをベースに打撃を捉えることにより単純に「遠くに飛ばす喜び」だけではない打撃の魅力を生徒に届けられると感じている。次に、守備の目的は「得点を防ぐこと」である。そのために必要となるのが「進塁を防ぐ」ことである。この観点から技術構造を整理した場合、得点を防ぐために最優先で進塁を防がなければならない人が本塁に最も近い人であるという認識を生徒に持たせることができると考える。また、そのことが守備時における送球場所の判断基準になるものとする。

ソフトボールの効果的特性としては、「仲間と協力する態度」がある。ソフトボールでは、自分一人で得点することができる場面は非常に少なく「仲間を進塁させる」ためのプレーが要求される。また、守備においても、「塁上にいる仲間が取りやすいボールを投げる」ことで初めてアウトを取ることができるスポーツである。このように「仲間のためのプレー」を学習課題として設定することで、仲間と協力することの大切さを学習できる単元であると考えている。

ソフトボールの機能的特性としては、生徒の実態に応じて、様々な魅力がある。「遠くに飛ばす」「ボールがグローブに入った時の音」「速く正確なボールでアウトがとれる瞬間」などがそれにあたる。本単元では、その多様な機能的特性の中でも特に、攻撃では「仲間を進塁させる喜び」、守備では「的確な状況判断に基づいてアウトが取れる喜び」に重点を置く。

本学級生徒の「関心・意欲・態度」については、愛好度調査(4件法)を実施した。その結果、「ソフトボールは好きですか?」という質問に関しては、「好き」が19人、「少し好き」10人、「少し嫌い」5人、「嫌い」2人であった。また、「今後ともソフトボールができる機会があればやってみたいですか?」に関しては、「やってみたい」19人、「少しやってみたい」14人、「少しやりたくない」3人、「やりたくない」0人であった。調査結果より、約7割の生徒がソフトボールに対して肯定的な態度を示していることがわかった。一方で約3割の生徒は否定的な態度を示している。

本学級生徒の「思考・判断」については、授業中の様子から、安全面に対する配慮や学習課題に取り組む時間を確保するための能率的な準備や片付けなどに関しては、その必要性をきちんと理解し、判断しながら行動できる生徒が多い。また、学習課題から離れてしまう生徒がいた場合にも、声をかけ、クラス全員が課題に向けて努力できるように促してくれる生徒もいる。

本学級生徒の「技能」については、遠投テスト(助走なし)を実施した。その結果、40m以上が10人、30m以上が5人、20m以上が10人、10m以上が11名、10m未満が1名であった。また、男子と女子の遠投テストの結果に大きな差がある。

本学級生徒の「知識・理解」については、ソフトボールに関する基本用語を確認する知識テスト（平均 19.9 点/30 点）を実施した。結果の内訳としては、8 割以上（24 点以上）が約 37%，6 割以上（18 点以上）が約 37%，4 割以上（12 点以上）が約 8%，4 割未満（11 点以下）が約 18%であった。調査結果より、「守備位置の名称」「ストライク」「ボール」といった基本用語については、約 9 割の生徒が正答していることがわかった。

指導にあたっては、クラス全員に攻撃では「仲間を進塁させる喜び」、守備では「的確な状況判断に基づいてアウトが取れる喜び」を実感してもらえるように、3つの工夫を実施する。

一点目は、「達成基準が明確な学習課題を設定すること」である。生徒同士でも達成度を評価し合えるような具体的な学習課題を設定することで、生徒同士の相互作用を促したい。

二点目は、「振り返りの充実」である。課題を達成できた理由とできなかった理由を生徒から発言させ、全体で共有することで、次の時間がより充実した授業となるようにする。

三点目は、「試合の仕組みを工夫すること」である。攻撃、守備ともに既存の仕組みのままでは、学習課題に挑戦できる機会が限られてしまう。そのため、打撃の機会と守備の機会を大幅に増やすような工夫を実施する。また、学習課題の難易度に応じて、試合の仕組みを変化させていきたい。

指導目標

明確な学習課題の設定、振り返りの充実、試合の仕組みの工夫という 3 つの手立てを柱とし、クラス全員が学習課題を達成できるようにする。

指導計画（全 15 時間）

- | | |
|----------------------------|----------|
| 1. 事前調査 | 2 時間 |
| 2. 基本技能（バッティング）の習得 | 2 時間 |
| 3. 基本技能（走塁、捕球、送球）の習得 | 2 時間 |
| 4. 試合形式の中で状況判断力を習得 | 8 時間（本時） |
| 5. 事後調査 | 1 時間 |

本時の目標

ソフトボールの試合の守備場面において、全員がスムーズにボールを捕球し、「投げる場所の優先順位」に基づいた送球を行い、アウトを取ることができる。

学びを豊かにするための手立て

本時の学びの豊かさとは、「本時の目標をクラス全員が達成する姿」であり、また、「どうすれば学級全員が本時の目標を達成できるのかな？」と考え、工夫しながら練習に取り組んでいる姿である。以上のような姿を生み出すための手立てとして、以下に 3 つあげる。

一つ目の手立ては、打撃場面を増やすために、「ピッチャー」「スリーアウト交代」「三振」「フォアボール」を廃止し、チーム全員がバッティングを実施し終えることで攻守交代とした。また、攻撃側のチームからバッターのトスアップを行う選手を 1 名出させた。これにより打撃場面が増え、それにとまって捕球する場面が増加し、学習課題に挑戦できる機会を保証できるようにした。

二つ目の手立ては、「優先順位に基づいた送球」の達成度を確認しやすくするため、塁上にいる守備選手のグローブにボールが触れた瞬間と走者が塁を踏む瞬間のどちらが早いかでアウト・セーフの判断を行うこととした。つまり、塁上の選手が捕球ミスをした場合であっても、走者が塁を踏む瞬間よりも

早い場合、アウトと判断させた。

三つ目の手立ては、送球の判断という能力を可視化し、生徒同士でも達成度を評価しあえるように、「送球の優先順位」という判断基準を設定した。

守備の目的は、得点を与えないこと、そのために「進塁を防ぐ」ことである。そのため、最も得点される可能性の高い塁（本塁に近い塁）からボールを投げ、走者がアウトになるようにする。

学習の展開

学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点（◆評価）
<input type="checkbox"/> ウォーミングアップをする。 ・ 5種類のキャッチボールを1分ずつ実施する。	<input type="checkbox"/> ウォーミングアップの目的を意識して実施しているかを観察し、意識が低いようであれば、集合させ目的の再確認を行う。
<input type="checkbox"/> 学習課題の確認をする。	<input type="checkbox"/> 学習課題と、課題達成に向けて何をすべきなのかを説明する。
<p>ソフトボールの試合の守備場面において、全員がスムーズにボールを捕球し、「送球の優先順位」に基づいた送球を行い、アウトを取ることができる</p>	
<input type="checkbox"/> 試合を実施する。 学習課題の達成に向け、以下の点に注意し、取り組む。 ・ 全員がバッティングを実施したら攻守交代 ・ 攻撃側から塁審を2名出すこと ・ バットを投げない等、安全に注意すること ・ 攻撃の際、グローブを所定の位置に整頓する ・ 課題の達成者、未達成者を把握する ・ 守備位置は、いつ変更しても良い	<input type="checkbox"/> 課題に意識に向いていない生徒がいた場合には、他の生徒が、その生徒を学習活動に戻すように促す。 <input type="checkbox"/> 残り時間の伝達や課題の達成状況の確認を助言し、課題解決に向けての意識を高める。 ◆全員が学習課題を達成できるように工夫した行動ができたか（思考・判断）。
<input type="checkbox"/> 振り返りをする。 ・ 全員達成できたかどうかを確認する。 ・ 課題を達成できた人の工夫点を共有する。	<input type="checkbox"/> 全員が学習課題を達成できるように工夫している行動例を上げ、評価する。 <input type="checkbox"/> 生徒に課題を達成するために工夫したことを発言させる。 ◆全員がスムーズにボールを捕球し、「送球の優先順位」に基づいた送球を行い、アウトを取ることができたか（技能）。

ソフトボールのルール一覧

□競技場について

- ・塁間は14mとする。

□用具について

- ・バットは、金属製、軽量の学校体育製を選択できることとする。
- ・ボールは、学校体育用3号球（黄色のゴム製で、既存のボールよりやや柔らかい）とする。

□チーム編成について

- ・男子17名 女子21名
- ・男女で4グループ（9～10人）を編成することとする。

□試合について

- ・試合は、制限時間制（30分）とする。
- ・チーム全員（10人に統一）が打席に立ち、打撃を終えた時点で、攻守交代とする。
- ・打順や守備位置の変更は、イニング毎に何度でも実施してよい。
- ・投手、捕手は無しとし、攻撃側のチームのトスアップで打撃を実施する。
- ・死球（デットボール）はなしとする。
- ・四球（フォアボール）、三振はなしとする。
- ・バントはありとする。
- ・走者は、打者のバットにボールが当たった後、離塁することができる。
- ・走者の盗塁は禁止とする。
- ・走者のスライディングは禁止とする。
- ・守備者は、下記9名とする。また、欠席がいる場合は、相手チームから応援に来てもらうこととする。
ホーム、ファースト、セカンド、サード、ショート、レフト、レフトセンター
ライトセンター、ライト
- ・トスアップは、ネクストバッターが担当する。
- ・審判員及び記録員は、攻撃側が担当する。